

東西南北

2017.3.13



多くの人がスマートフォンを手に誰かと会話をしたり、ゲームをしたり。ここ数年で列車やバスの中の風景も変わった。いまや2人に1人がスマホを持つ時代。便利な代物は私たちの暮らしの中に急速に入り込んでしまった▼なにも大人だけではない。待合室などでスマホに熱中する子どもをよく見掛ける。そんな現状について、「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（座長 坂元章・お茶の水女子大教授）が2月、興味深い調査結果をまとめた▼未就学児のうち、スマホなど情報通信機器の利用経験がある子の割合

は3歳児で60%、6歳児では74%。写真・動画の閲覧やゲームが中心で、約半数は「毎日必ず」か「ほぼ毎日」という。理由のトップは「子どもの機嫌が良くなる（喜ぶ）から」、次いで「保護者の手を離れる時間ができるから」▼煩わしさや、おとなしくさせようとして、ついついわが子にスマホを渡してしまう自分に気づく。まさに「スマホ育児」。目が悪くならないだろうか。将来、依存状態になったり、「コミュニケーション能力に支障を来しはしないか」。調査でも、何らかの不安を感じる保護者は9割を超えた▼子どもは大人の鏡という。スマホが手放せない親と、親の都合でスマホを渡される子ども。スマホ育児の不安は、大人はどうあるべきか、子どもはどう向き合うべきかと問い掛けているのかもしれない。

(2017年3月13日付朝刊1面)

- ① 皆さんがスマホを使う時に、親と決めているルールはありますか？または、スマホをどう使うか、使わないかについて親と話をすることはありますか？

思いつくのは、使う時間の長さや時間帯を決める、親と一緒に見る、などでしょうか。家庭ごとにユニークな決まりがあるのかもしれませんが。

- ② スマホとうまく付き合うために、自分から守らなければいけないと思うことはどんなことですか。また、親にお願いしたいことは何かありますか？考えてみましょう。

使いすぎて目が疲れ、宿題をする体力や気力が奪われるのでは本末転倒です。親子お互いが気持ちよく使えるよう、目的に合わせてスマホを使う上での相手の願い、気持ちをお互いが思いやりましょう。